

講演Ⅱ

「認知症初期対応における作業療法士の役割」



講師

広島都市学園大学リハビリテーション学科

作業療法学専攻

谷川 良博 先生

本学会において私のテーマを標記に設定させてもらったのには理由がある。それは、『認知症初期の対応』、『認知症の初期対応』と、区切り方によって支援の内容が異なるからである。その理由から説明をしたい。

私は6年ほど診療所デイケアの管理者として勤務していた。その頃から、地域に出かけることを目標としていたので、住民との公民館活動の参画、認知症勉強会の立ち上げなどにかかわってきた。これらの活動によって、地域には介護や医療サービスを利用していない認知症高齢者がいかに多いのかを実感することになった。地域には周囲に気づかれることもなく暮らしている認知症高齢者が、多く存在している。あるいは、本人が頑なに拒み、サービスにつながらないケースもある。これは、先に述べた『認知症の初期対応』で、支援のファーストタッチである。講演では、この『認知症の初期対応』と、『認知症初期の対応』のそれぞれの事例を紹介し、作業療法士の役割について考えてみたい。

【略歴】

平成2年 労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校作業療法学科 卒業

平成2年 南小倉病院就職（現：小倉リハビリテーション病院）

平成12～25年3月 特別養護老人ホーム、通所リハビリ勤務

平成25年4月より現職。

【著書】

- ・ 認知症の人の心を紡ぐケア（三輪書店）
- ・ 認知症の作業療法（医歯薬出版） 分担執筆
- ・ 認知症高齢者の作業療法の実際（日本作業療法士協会）分担執筆
- ・ 生活行為向上マネジメント（日本作業療法士協会）分担執筆
- ・ IADL（三輪書店） 分担執筆
- ・ テクニカルエイド（三輪書店） 分担執筆
- ・ その他 作業療法ジャーナル、臨床作業療法、訪問リハビリテーション、認知症ケア最前線などに、認知症の支援について執筆

【主な委員】

- ・ 日本作業療法士協会『認知症の人の生活支援推進委員会・委員』
- ・ 日本認知症ケア学会代議員